

表1 萩野地区の草地更新状況

農家 No.	面積 ha	除草剤 使用	使用機械	施工
A	5.0			中止
C	6.0		プラウ+ディスク	自力
D	10.0	○	反転ロータリ	サポート委託
G	8.5	○	プラウ+パワハラ	自力
H	11.5	○	ディスクハラ	自力
I	6.3	○	プラウ+パワハラ	自力
K	9.0	○	反転ロータリ	自力
L	16.2	○	プラウ+ディスク	自力
M	5.3	○	プラウ+ディスク	自力
O	5.2	○	ロータリ-2回掛け	自力
P	3.0		プラウ+ディスク	自力
Q	3.0	○	反転ロータリ	サポート委託
T	2.0			中止
W	4.5	○	プラウ+ディスク	自力

普及センターの活動紹介

一、標茶町の重点活動

普及センターでは、萩野地区を対象に様々な取り組みを行い、その成果を地域に広めていく活動を進めています。

肥料や飼料等の価格高騰が続く中、草地資源を最大に活かした良質な原料草づくりと、自給飼料主体の低コスト酪農経営の確立を目指しています。

二、自力更新面積の拡大

関係機関と共に植生改善を推進しており、昨年JAが導入した反転ロータリーハローの有効利用に加え、手持ちの機械で更新を図るよう活動しています。

今年度は、天候に恵まれず耕起や種作業が遅れたり、予定して

いた更新を見送る農家もありました。しかし、地区内では八八・五ヘクタールに達し、目標にあげた五〇ヘクタールを大きく上回る結果となりました(表1)。



写真1 除草剤使用更新草地 (左) と未使用の昨年更新草地 (右)

また、昨年来更新時における除草剤の必要性を提案してきましたが、昨年「除草剤を使わずに更新したが雑草が多く、掃除刈りした」「地下茎が絡み機械に負荷が掛かった」など、除草剤の必要性が理解され、今年度は除草剤の使用が増えました(表1)。

しかし一方で「散布機の所有がない、手間がない、タイミングよく作業できない」と除草剤を使わなかった草地では、高い経費を掛けると十分な植生改善が得られないケースも見られます。

三、施肥改善による肥料コストの低減

施肥設計ソフト・アマフェ(Amafe)を使用し、土壌分析に基づく施肥改善に取り組んでいます。今春の施肥改善では「肥料費が節減できた」(図1)と二十六年度も施肥設計の相談が

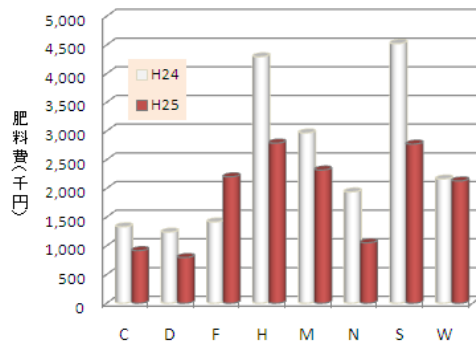


図1 施肥改善農家の肥料費(早春)の変化

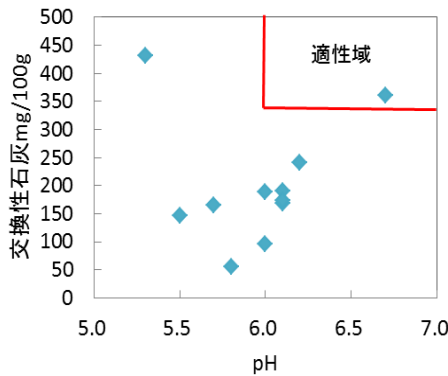


図2 pHと交換性石灰含量(13ほ場)

増えていきます。また、土壌分析の結果から土壌中における石灰含量が低いことから(図2)、石灰資材の積極的な散布を勧めます。

四、更新草地の維持管理

適期に雑草防除や追播など、更新経費に見合った収益性の高い草地の維持管理を行いましよう(図3・写真2)。



写真2 Y農家の3年目の更新草地

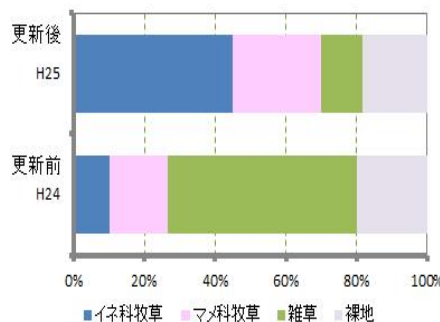


図3 Y農家の更新前後植生